

金融情報システムセンター (FISC) における 植田総裁の講演（十二月）

▼植田総裁は、二〇二四年十二月四日、「決済の未来と中央銀行の役割」について講演しました。通貨・決済システムが技術革新とともに安全性と効率性を向上させた歴史を紹介し、最新の技術革新が決済の未来へ与える影響について話しました。

▼マネーの本質として利用者の信認維持を挙げ、偽造対策や価値の安定が重要であるとししました。また、帳簿の進化が決済の効率性を向上させてきた一方、安全性の観点から新たな工夫が求められている点に言及しました。

▼決済のオンライン化、金融資産のペーパーレス化、DVP (Delivery Versus Payment) の普及、即時クロス決済の導入などを通じて、効率性にも配慮しながらリスク削減を促進した歴史に触れ、新たな技術と各種の法制度や実務との調和が決済システムを改善する上で重要と指



講演を行う植田和男総裁

(撮影：野瀬勝一)

摘しました。

▼最近のデジタル経済について、GAF Aなどのプラットフォームフォーマーが形成する経済圏が拡大し、新技術による効率化、利便性向上が期待される一方、ガバナンスやレジリエンスへの要請が高まっている点も指摘しています。また、分散型台帳技術 (DLT) やスマートコントラクトの活用により、新たなサービスの創出が容易になる一方、その限界も認識する必要があるとしています。最後に、日本銀行の取り組みとして、プロジェクト・アゴラや一般利用型

CBDCの検討に触れ、中央銀行として、新技術と法制度の調和を図りつつ、民間マネーとの役割分担を考えながら、より安全で効率的な決済システムの実現に向けて努力を続ける点を強調しました。

▼当日の講演資料は、日本銀行ホームページをご覧ください。



「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会 (第八回)」を開催（十一月）

▼日本銀行は、二〇二四年十一月二十五日に「中央銀行デジタル通貨に関する連絡協議会」を開催しました。同協議会は、中央銀行デジタル通貨に関する日本銀行の取り組みについて、民間事業者や政府との情報共有を図るとともに、今後の進め方を協議するものです。

▼八回目となる今回の協議会では、はじめにCBDCに関する

パイロット実験を構成する二つの柱である「実験用システムの構築と検証」と「CBDCフォーラム」の進捗状況等を説明しました。具体的には、実験用システムについては、その構成や特徴、台帳設計パターンについて説明を行いました。また、CBDCフォーラムについては、CBDCの技術的な側面のほか、CBDCを活用した決済サービスのあり方やCBDCを基盤とした決済の将来像等について、七つのワーキンググループで民間事業者と行っている議論の状況を説明しました。その他、CBDCを巡る諸外国の動向等について説明し、参加者の方々と意見交換を行いました。

▼連絡協議会の説明資料や議事要旨は、日本銀行ホームページをご覧ください。



「決済の未来フォーラム クロスボーダー送金分科会 (第七回)」を開催(十二月)

▼決済機構局では、二〇二四年十二月十一日に標記会合を開催しました。

▼会合では、これまでの分科会と同様、クロスボーダー送金の改善に向けた取り組みとして、①クロスボーダー送金改善のKPI報告書と優先取組分野を含むロードマップ、②AML/CFT(注)の取り組みが紹介されました。

▼①では、金融安定理事会(FSB)の「クロスボーダー送金の目標達成に向けた年次進捗報告書」・2024年KPI報告書」と「クロスボーダー送金の改善に向けたG20ロードマップ」・2024年統合進捗報告書」から、取り組みの状況が説明されました。参加者からは、本邦における送金のスピードの課題として規制対応や商慣習をあげ、自動化を進めることが重要とする声のほか、海外でも国ごとに

送金の課題が特定され取り組みが進んでいるといった紹介、各種施策の推進には、取り組みにかかる負担を上回るメリットについて関係者に理解してもらうことが重要といった提言がありました。

▼②では、AML/CFTに関する金融活動作業部会(FATF)の下部会合での議論の動向、FATF第四次対日相互審査フォローアップ結果や次回審査を見据えた国内のマネロン対策の現状と課題等が紹介されました。参加者からは、リスクベース・アプローチのもとでの実効性確保や、システム構築等の期間も考慮に入れたタイムライン設定の必要性などを指摘する声が聞かれました。

▼本会合の議事概要などは、日本銀行ホームページをご覧ください。



(注) マネーロンダリングおよびテロ資金供与対策などを指す。

「震災三〇年特別見学会」 を開催しました (神戸支店)

▼二〇二五年一月、阪神・淡路大震災発生から三〇年の節目を迎えました。神戸支店では、震災が発生した一月十七日に「震災三〇年特別見学会」を開催しました。通常の見学の受入人数は五名以上ですが、特別見学会は一名

での申し込みも受け付けることとし、少人数でご参加いただけるよう工夫しました。また、本見学会は、兵庫県が実施している「阪神・淡路大震災三〇年事業」に参画したイベントでもあり、同事業のロゴマークやキャッチフレーズを使用した募



特別見学会で引換え基準について説明。阪神・淡路大震災では多くの焼けた銀行券・貨幣が持ち込まれた。

集ポストスターを作成しました。

▼特別見学会では、阪神・淡路大震災時において、神戸支店が果たした役割について展示パネルをご覧いただきながら、通常見学では時間制約から紹介しきれない内容についてもできる限り丁寧の説明しました。具体的には、①甚大であった地震被害で「損傷したお金の引換え作業」に携わった職員の奮闘の様子の



震災当時の燃えたお札の鑑定作業

ほか、②神戸支店で市中金融機関が窓口業務を行った「金融機関の臨時窓口設置」（日本銀行の歴史で二回目）や、③被災者の混乱を回避するため、各金融機関に対して、通帳や印鑑を紛失した場合でも、預金者であることを確認して払い戻しに際することなどを要請する「金融特別措置」の発出（地震発生から六時間後には、混乱の中、手書きの要請文を報道機関に自転車で届けた）など、当時の対応が被災した方々にどのような役割を果たしたかを紹介しました。また、④旧金庫において、震災当時から現在までの銀行券の保管



神戸支店

方法の変遷をご覧いただきながら、当時の経験が大きな揺れにも耐えられる保管方法の工夫にどのように活かされているかを知っていただきました。

▼見学会の参加者からは、「貴重な学び・体験の機会となった」「初めて知ることばかりで良い経験になった」「震災時に対応した職員の高い使命感に感動した」「日本の金融を守る最後のとりで、その覚悟が感じられた」などの言葉をいただきました。

▼今回の特別見学会のキャッチフレーズである「うすれない記憶はない。つなぐべき決意がある。」の思いを胸に、神戸支店で

は、これからも機会を捉えさまざまな見学会などを通じて、日本銀行について幅広く知っていただく広報活動を継続してまいります。

「第20回日銀グランプリ」 「キャンパスからの提言」 の決勝大会を 開催

▼大学生を対象とする金融・経済分野の小論文・プレゼンテーションのコンテスト「第20回 日銀グランプリ」キャンパスからの提言」は、全国各大学から一三九編の作品が寄せられ、書類審査を通過した五チームにより二〇二四年十一月二十三日

に決勝大会が日本銀行本店で開催されました。

▼決勝大会の審査員は、日色保氏（経済同友会副代表幹事、日本マクドナルドホールディングス株式会社代表取締役社長兼最高経営責任者）、原田文代氏（株式会社日本政策投資銀行常務執行役員）、日本



最優秀賞の東京経済大学経済学部・経営学部チーム

(撮影：野瀬勝一)

編集後記

■ 30年ほど前、日本銀行に入行して初めて赴任した街が前橋でした。前橋の街中はその頃から寂しく、一番大きな商店街でも人影はまばらという状況でした。そんな前橋の街に凄^{すご}いホテルができたという状況でした。そんな前橋の街に凄^{すご}いホテルができたという状況でした。今回の「インタビュー」では、その仕掛け人でもあるJINSの田中仁CEOにお話を伺いました。

緑あふれるホテルのラウンジで、地域貢献の意義や人のつながりの大切さ、前橋の街の変化や将来像を語っていただきました。本業のメガネ事業も、参入からアップダウンを経て成功をつかみ取るまで、思わず引き込まれるエピソード満載です。地域貢献もメガネ事業も、キーワードは「ビジョン」と「覚悟」です。

■ 全国32の都市にある日本銀行の支店は、独立した建物を構えていて、街中でも知られた存在だと思います。他方、それを補完する形で全国12都市に設置されている日本銀行の国内事務所は、他のビルに間借りしていることもあって、あまり目立たないかもしれません。今回の「FOCUS BOJ」では盛岡事務所を取り上げ、その仕事内容や地域で果たしている役割に迫ります。盛岡の魅力も感じられる内容となっていますので、ぜひご覧ください。(小牧)

[アンケート募集中]

「にちぎん」に関するご意見・ご感想は、アンケートよりお寄せください。日本銀行のホームページからインターネットでもアンケートにご回答いただけます。



※本誌は、全国の日本銀行本支店および貨幣博物館、旧小樽支店金融資料館等でお配りしています。個人の方の定期購読、郵送はお取り扱いしておりませんのでご了承ください。なお、既刊号全文をPDF ファイル形式で日本銀行ホームページ上に掲載していますのでご利用ください。(https://www.boj.or.jp/about/koho_nichigin/index.htm)

※本誌に掲載している内容は、必ずしも日本銀行の見解を反映しているものではありません。日本銀行の政策・業務運営に関する公式見解等については、日本銀行ホームページ (https://www.boj.or.jp) をご覧ください。

にちぎん 2025 年春号
編集・発行人 小牧義弘
発行 日本銀行情報サービス局
〒103-8660
東京都中央区日本橋本石町 2-1-1
☎ 03-3277-1947

デザイン 株式会社市川事務所
印刷 株式会社アイネット
禁無断転載

銀行の氷見野良三副総裁（審査員長）、安達誠司・中村豊明両政策委員会審議委員でした。各チームとも堂々とプレゼンテーションと質疑応答を行いました。

▼最優秀賞には、東京経済大学経済学部・経営学部チームの「Future Can Change ～家計の排出量取引参入スキーム「FCC」による脱炭素行動の強化～」が選ばれました。その他、優秀賞に東京理科大学経営学部チーム、同志社大学経済学部チーム、

敢闘賞に東京経済大学経済学部チーム、大阪大学経済学部チームが選出されました。

▼決勝参加チームの作品全文と審査員講評および決勝大会の様子を収録した動画は、日本銀行ホームページをご覧ください。



決勝進出5チームと審査員の皆さん

(撮影：野瀬勝一)

新卒採用エントリー シートの募集開始

▼日本銀行は、三月一日から新卒採用（総合職、特定職、一般職）のエントリーシートの募集を開始しました。詳細は、日本銀行ホームページをご覧ください。

